

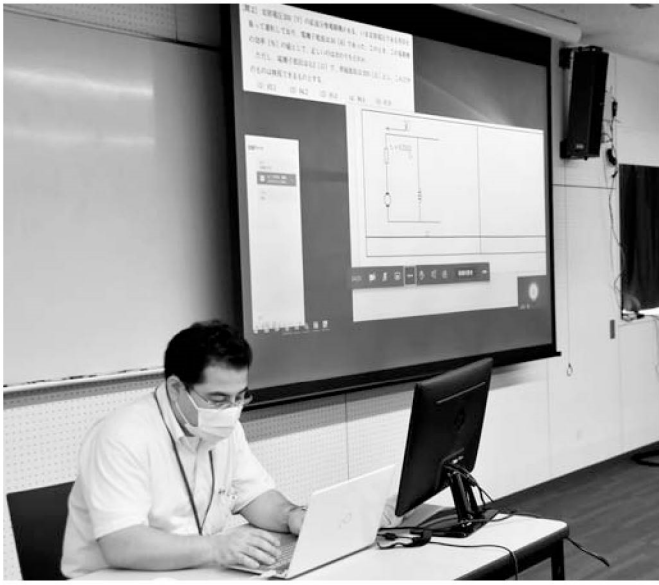
技術者育成懸命に

名古屋工学院専門学校

将来の電気技術者を輩出する教育現場が、新型コロナウイルス禍の混乱に立ち向かっている。毎年多数の生徒が電気主任技術者や電気工事士などの国家資格を取得する名古屋工学院専門学校では5月下旬、オンラインで約2カ月ぶりに授業を再開した。同校の教員が普段の授業で使う教室からリアルタイムで講義を配信し、生徒はスマートフォンやパソコンを通じて受講できる。学校側が異例の対応に迫られる一方で、当初予定から変更のない資格試験の時期は刻々と迫る。新型コロナウイルスの影響で先行きが読めない状況の中、不安と緊張が入り乱れる教育現場取材した。

(西村 篤司)

「学校に行きたい」――学科の石原昭科長は「当」。自宅では授業に集中できる環境が整わず、こうすることで互いに刺激となろう不安を漏らす生徒も多り、モチベーションを維持できている例が多い。



数式を共有画面に映し出し、パソコンを操作しながらオンライン授業を進めている

新型コロナウイルス受け 手応えと不安混在／フォロー重要に

オンライン授業

学校に来なければできない教育もある」と強調する。

同校では自宅に通信環境のない生徒や希望者向けに、オンライン授業と従来式の対面授業を併用できる体制を整備。新型コロナウイルス感染対策に万全を期し、オンライン配信する教員の講義を教室内で受けることもできる。

取材に訪ねた時には、電気主任技術者試験の主要科目となる「電気機械」の講義が行われ、88人の生徒がオンラインで参加した。教員は授業開始のチャイムとともにシステム上で生徒の出席を確認。その後、生徒と共有できるモニターの画面に資料を映し出し、パソコンを操作しながら授業を進めていた。

電気電子学科の授業では特殊な記号や数式などを多く使うため、パソコンの画面上に数式や図形を書き出すことができるフリーソフト「Mathcha」を活用している。

教員の声も届く仕組みとなっており、生徒は教員の声を聞きながらスマホやパソコンの画面を見て授業を受けられる。ただ、同校では通信回線に制約があり、授業中に生徒の様子を確認できないのが課題だ。

石原氏はオンライン授業について、「新型ワイ

ルスを機に今後の教育現場が変わる可能性もあり得る」との認識を示す一方、「生徒の表情が見えないと授業の内容を本当に理解できているかどうかは分からない」と疑問を呈する。

実際にオンライン授業を行った教員は、授業の効率化や教員の負担軽減につながるなどの利点を挙げ「慣れればメリットが大きい」と手応えを示す。一方、生徒からは「自分のペースで問題を解ける」「コミュニケーション手段が乏しく質問しづらい」など様々な声が聞かれる。

同校では新型コロナウイルスの第2波、第3波に備えた対応も検討中。4月から約2カ月間休校したことに伴い夏休みの一部を返上する形となるが、今後は「試験対策をしたい追い込みの時期に、単位を満たすための授業をしなければならなくなる」などの事態も懸念される。資格取得に向けては効率的な授業の進行に加え、生徒へのフォローも今後一層重要となりそうだ。

電気技術者試験センター(ECEE)、岡村繁寛理事長は、5月31日に予定していた20年度第2種電気工事士上期筆記試験を中止にした。一方、9月以降に予定される電気主任技術者試験や第1種電気工事士試験、第2種電気工事士下期試験の日程については、いずれも現時点で変更していない。